

いわちゃん ポスト

岩井やすのりの県政かわら版

千葉県議会議員



岩井やすのり

略歴 1970年(昭和45年)生まれ50歳
専修大卒、早稲田大学院 政治学研究科修了

事務所連絡先 TEL: **0476-36-7799**

HP: <http://www.iwai-y.jp> メール: mail@iwai-y.jp

印旛郡栄町安食台 2-26-23 (栄町役場前大山ビル 2F)

自民党に入党して、

党员として自民党をお支えください。

党費: 年 4,000 円 詳しくは岩井事務所まで

卒業式に**在校児童が出席できない**という課題

千葉ニュータウン地区の一部の小学校では、児童数の多さから卒業式に在校児童が出席できない事態に。保護者からの困惑の声を受け、市教育委員会に働きかけを行ってきました。

●在校児童は保護者席での出席も不可

印西市内に住む保護者の方からご連絡をいただいたのは、昨年9月のことです。お子さんが通う小学校では、入学式や卒業式に在校生の兄弟が出席できないことになっているとのこと。在校児童は保護者席に座ることも認められておらず、保護者が式に出席すれば入学式で2~5年生、卒業式では1~3年生の児童が自宅待機しなければなりません。その方には小学校低学年と年長組の未就学園児のお子さんがあるため、来年度迎える小学校入学式では、新1年生以外の在校児童の子どもさんが自宅にいないといけないことになるわけです。

学校側からは祖父母や近隣の友人に預かってもらってくださいとの説明があったそうですが、ニュータウン地区では他地域からの転入者が多く、実家が遠いケースも少なくありません。また、そもそも祖父母には式に出席してもらえないことになってしまいます。

●体育館の収容人数、教員数不足から校長が判断

すぐさま市教育委員会に確認したところ、今年度、式当日に在校児童を「自宅待機」させている小学校は、入学式については5校、年度末の卒業式については6校(予定)とのこと。市は体育館の収容人数の問題に加え、通常教室で指導などを行うには教員数の不足があるとし、学校長の判断によるものだと説明します。

確かに、近年は一部小学校で児童数が急増し、ま

た卒業児童1人あたりの出席者数も増加傾向にあるため、全ての関係者を出席させるには状況にあることは理解できるところです。

とはいえ、3人、4人とお子さんを多く育てられるがゆえに式に出席しづらいという実態は、決して看過できるものではありません。

小学校で配布された案内文

●自宅待機児童学年の撤廃、縮小等を要望

まずは、学童保育(学童クラブ)で式当日のみ子どもの預かりができないかとかけあったものの、学童保育は「就労により保育ができない家庭」を対象とした国の事業であり、市の判断で行えるものではないとのこと。また、市が行う「放課後子ども教室」での預かりも現実的でないことがわかりました。

そこで市教育委員会に「自宅待機児童の学年の撤廃または縮小」「自宅待機となった児童の(保護者とともに)入学式、卒業式への出席」の実現について、市教育委員会より各学校長に改善するよう呼びかけてもらうよう要望。昨年暮れの市内小学校の校長会ではこの問題が取り上げられ、あとは各学校長の判断に委ねられるところでした。

市教育委員会、学校としてもより多くの関係者に出席してもらいたいというのは偽らざる本音。実現に少なからぬ障壁があることはわかりつつも、問題解決に一步でも前進することを期待します。

県が北千葉道路(印西～成田)整備に注力する裏事情

成田空港等へのアクセス向上が期待される北千葉道路(国道464号)。東側の終点である成田市大山までの未開通区間 3.7 キロは、県の「肝いり」事業としてその整備に拍車がかかっています。

●平成 30 年の部分開通で既開通区間は7割

北千葉道路は、常磐自動車道と東関東自動車道のほぼ中間に位置し、首都圏の東京外かく環状線(外環道)から千葉NTを経て、成田空港を結ぶ全長約 43 キロの一般国道。首都圏北部や県西地域と成田国際空港間のアクセス強化や沿線地域の物流の効率化などが期待されています。

肝心となる都心部や成田空港への接続には至っていないものの、平成 29 年 2 月に印西市若萩～成田市北須賀間(4.2 キロ)、平成 30 年 2 月に成田市船形～同押畑間(3.8 キロ)が開通するなどして、既開通部分は 29.5 キロと全体の約 7 割となっているところです。

●国に「西側」着工求める千葉県「東側」開通を急ぐ

ところで、北千葉道路の西側区間(市川～船橋)については、国交省や千葉県などで構成する北千葉道路連絡調整会議が、有料の自動車専用道路とし早期着工を図ることを確認。国の直轄事業(＝国負担)で整備が進められることとなっている一方で、県が施工する終点となる成田空港までの東側区間(印西～成田)については腰が重く、開通は平成 41 年頃と言われていました。

しかし近年、県における北千葉道路の位置付けが急速に高まった結果、国に北千葉道路西側区間の早期整備を求める手前、県が施工することとなっている東側区間(印西～成田)を早期開通させる必要が生じたというわけなのです。これまで以上に予算が投入されるようになり、当初予定の平成 40 年代(令和 10 年以降)より相当早く開通する見通しとなってきました。



令和 2 年度予算案では、成田までの東側区間の整備費用に 33 億円余りが計上されている他、西側区間についても環境アセスメント、都市計画変更手続きを進めるとしており、全線開通への県の意気込みがうかがわれます。

●掘割部の雑草、雑木とゴミ 景観対策を強く要望

一方で、北千葉道路の掘割部については雑草やゴミなどが問題視されています。本線沿線ではツタ系植物等の雑草が繁茂し、道路の見通しが悪くなる等の危険箇所が散見される他、インターチェンジ付近では沿線にゴミが散乱し、景観も良くありません。利用者や住民からの指摘の声がある他、印西市からも改善の要望が上がっているのです。

岩井はこの問題を県議会本会議にて取り上げ、県による沿線管理や利用者への啓発の徹底を要望。道路管理者による巡回を強化する他、雑木伐採等の対策費を予算計上するよう強く求めてきました。

雑草・雑木については繁茂期に集中対策を講じることとなったものの、ゴミの回収についてはそう頻繁に実施できないのが実情。利用者のマナー向上も大きな課題です。

